No.	5	―	52	―	1

地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日： 令和5年（2023年）11月29日

作成者： （課名） 市民協働推進課

（氏名） 杣　晴薫

1　基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 Ⅱ　街並み・景観の美しいまちづくり
	【具体的な取り組み】 2　環境の整備と維持保全 （3）ゴミステーションの改善を図る ①鳥公害と美観の観点から、 機能性と美観を兼ね備えた容器、 設置場所等を総合的に検討する
取組内容の関係課	環境部　クリーンセンター　業務課

2　対話の状況

（1）実施概要

ア　日時：　令和5年（2023年）11月9日　10：00～11：10

イ　場所：　宝塚市役所2-4会議室

ウ　出席者：以下のとおり

＜まちづくり協議会＞
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
●

＜関係課＞
二宮業務課長

＜協働の取組推進担当次長＞
戸井室長

（2）確認できたこと

ア　ごみステーションに関する現状と課題
宝塚市は個別収集方式ではなくごみステーション方式を採用。末成小地域では、237箇所のごみステーションがあり、大半が防鳥ネット式である。カラスが嫌がる成分を含む黄色い防鳥ネットを中心としているが、ごみのネット内への入れ方が甘かったり、ネットからのはみ出しなどが原因でカラスに荒らされる被害が課題。ホームページで啓発をしたり、折り畳み式ネットボックス購入の補助を始めるなど様々な対策を行っているが、完全な解決には至っていない。ボックスの置き場所の問題や、補助の予算がまだ少ないことなどから、全てボックスに入れ替わるにはまだ時間がかかると思われる。また、その他の課題として、地域におけるごみの出し方のマナー啓発の限界や、片付けの担当、ボックス設置費用やごみステーション管理などの自治会加入有無に関わる課題も挙げられた。

イ　ごみボックスについて
市はボックスの購入に対し、ごみステーション1箇所につき上限1万円の補助金を出している。道路上には何も置いてはいけないという大原則があるため、どこにでも置けるわけではないが、生活上やむを得ないことを理由に、すぐに片付けることを条件に運用されている。しかし、ボックスの片付けをしていない箇所も見受けられ、トラブルが生じない限り黙認されているのが現状である。ボックスの導入が進めばカラスの被害は少なくなると考えられるが、道路管理上の問題と予算の関係で、補助交付件数は現時点で70件に留まっている。

ウ　今後について
現在、きずな収集という、ご自身でのごみ出しが難しい65歳以上の高齢者又は障碍者を対象とした個別収集を行っているが、市内全戸個別収集化については現時点では検討していない。戸別収集は経費がかかり過ぎる点が課題。まち協側からは、御所川付近ではごみが川に落ちてしまったり、車がふんでしまったり、ボックスやネットからはみ出たごみが原因となる衛生面上の課題があるので、引き続きマナー啓発を呼びかけ、ボックス化も進めて欲しいとの要望が挙げられた。

エ　資源ごみ盗難について
まち協側からは、「地域ではその現場を見た人が実行者に直接注意したり写真を撮りクリーンセンターに通報したりしているが、特に新たな対策が取られていないのが現状。担当者がパトロールを強化しているが、効果がない。資源ごみは、市民の手から離れた段階で市の資産となるので、市が市民からの通報をもとに警察に被害届を出すなどの対策を講じること」を要望。現在、資源ごみの盗難について、市としては警察への通報などは行っていない。今後もおそらく通報などはしないであろうと予測（市側の出席者は所管外のため、知るところで回答）。市としては、条例に罰則規定はないが、管理課に通報をもらえば条例違反としてパトロールや注意を行う。しかし、多数あるごみステーションを全て見回るのは現実的ではないとの見解。本件については、所管外であることから今後の対応についての明確な回答は控えた。